

 評価のポイント

CL-新人.ニーズを捉える力（精神科）

〔7-新人〕精神力動的理解の基本／心の構造

①ある患者さんが、『上司が私のことを嫌っているから会社に行けない。』という思いを抱いています。この患者さんの言葉の背景を、推測してみましょう。

出題の意図：患者の言動を理解するために精神力動的に解釈することは、対象理解を促進し、精神看護の専門性を高めることに繋がります。

## 解答例

対人関係の不安：患者さんは対人関係に対する強い不安を抱いている可能性があります。過去の経験やトラウマが、上司との関係に対する不安を増幅しているかもしれません。

自己評価の低さ：患者さんが自分自身に対して低い自己評価を持っている場合、自分が他人に嫌われていると感じやすくなります。この場合、上司が自分を嫌っているという思いは、自己評価の低さの反映かもしれません。

被害妄想：患者さんが被害妄想を持っている場合、実際には上司が嫌っていない、嫌われていると感じることがあります。

ストレス：仕事のプレッシャーや職場環境からくるストレスが、上司との関係を悪化させていると感じる原因かもしれません。この場合、上司に対するネガティブな感情が強調されることがあります。

過去の経験：過去に上司や同僚からの否定的な扱いを受けた経験があり、その影響で現在の上司にも同様の不安を感じている可能性があります。

②この患者さんはその考えによって被害的になっています。この状況をイド、自我、超自我の視点で考えてみましょう。

## 解答例

イド：この患者さんのイドは、承認欲求や愛情を求める欲求を持っているかもしれません。しかし、上司からの否定的な反応を感じることで、これらの欲求が満たされず、フラストレーションが高まっています。

衝動的な反応：患者さんが会社に行きたくないと感じる衝動は、イドの即座の欲求（ストレスから逃れたい）を表している可能性があります。

自我：患者さんの自我は、上司との関係や職場での現実的な状況を評価し、その中でどのように行動すべきかを判断しようとしています。

防衛機制：患者さんの自我は、上司からの否定的なフィードバックを防衛機制を使って処理しようとしています。例えば、「上司が自分を嫌っている」という思い込みは、実際の不安や自己評価の低さから自分を守るための合理化や投影かもしれません。

超自我：超自我は、社会的な規範や道徳、個人の理想を反映します。患者さんの超自我は、自己評価や道徳的な基準に基づいて、自分がどのように行動すべきかを示しています。上司に嫌われていると感じることは、超自我の厳しい基準による自己批判の一部かもしれません。患者さんは、自分が理想的な社員でないと感じることで、自己批判を強めています。